

II. 調査結果の分析

7. 家庭訪問

家庭訪問を行っているか（地域区分）を見ていくと定期的、あるいは必要な時に実施している園が最低でも関東地区の 43.9%、最高では中国四国 67.1%と全体的にほぼ半数強の園が実施していました。家庭の中に入っていき事が自然な形で実施できる事は、おおきな力になります。家庭訪問に関しては母子保健の分野でも難しく児童相談所のみに許されている事で、今後この家庭訪問という介入方法が、子どもを中心とした親やその家族を地域から孤立させない為に大切になってくると考えられます。様々な工夫を試みて、存続させていく事が必要であると思われれます。図【6】家庭訪問を行っているか（所在地区別）は都区部・指定都市 46.1%と、親の就労の状況や核家族化が進んでいる都市部を見てみるとやはり少し少ない結果がでています。全国的には、最低の数字でもあります。わずかな差ではありますが、「近畿地区が 60.2%」と都市化が進んでいる地域であるにも関わらず高い数字が出ていることに、具体的な方法、事例としてどんな形で実施しているのか知りたいところです。又、家庭訪問が必要な家庭が多いのかとも考えられます。さて、家庭訪問を行っていく中で公立と私立の比較を見てみると、平均的にほぼ同じ様な数字で公立と私立が実施していました。「家庭訪問を行っているか」の問いに、定期的に行っている「公営 16.3%」「民営 16.7%」必要な時に行っている「公営 38.6%」「民営 33.2%」となっています。家庭との連携の取り方として家庭訪問をあまり熱心に行っていない地域は、どんな方法を取っているのかも興味深いところです。